

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	愛知県	市町村名	豊田市	大学名	
派遣日	令和4年7月22日(金曜日) 12:30~16:15 <派遣当日の日程> 12:30~13:00 打合せ 13:00~13:30 会場にて準備 13:30~15:50 研修会にて講演・質疑応答等 15:55~16:15 研修者の個別の相談対応				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <u>派遣</u> / 遠隔				
派遣場所	豊田市教職員会館 (愛知県豊田市保見町西古城92-1)				
アドバイザー氏名	今澤 悌 山梨県甲府市立大国小学校 教諭				
相談者	豊田市教育委員会 豊田市教育国際化推進連絡協議会				
相談内容	日本語と教科の統合学習について ・ J S Lカリキュラムの必要性 ・ J S Lカリキュラムにおける日本語の力と教科の力の考え方 ・ J S Lカリキュラムの活用法、実践例 ・ 個々の学習意欲を引き出すための対応 ・ 授業づくりのステップ ・ 教科の目標と日本語の目標のたて方 ・ 個に応じた指導の工夫 ・ 在籍学級との連携				
派遣者からの指導助言内容	「外国ルーツの子どもたちの将来を見据えた日本語支援—小中学校での日本語指導の経験から」という演題で、外国人児童生徒等にかかわっている国際担当や担任、教務主任、学校日本語指導員を対象に、J S Lカリキュラムの実際、在籍学級との連携、リライ教材作りについて、指導助言していただいた。 ・ 生活言語能力と学習言語能力の習得の仕方の違いから見てくる子どものための組織的な学習体制の必要性。 ・ 学校で見せる姿だけでなく、子どもの背景にある言語文化の把握や保護者の願いを聞き取ることの大切さ。 ・ 難しいからと授業への参加をあきらめるのではなく、児童生徒のことばの力でもできそうなことを見つけて支援していくという考え方。 ・ 日本語と教科の統合学習のねらい。 ・ 具体的な事例を通した日本語で学習活動に参加する力の育成方法。 ・ 国語科の教科目標「主人公の気持ちをとらえる」ために必要な日本語の目標を考えるなど、実際の教材を用いた語彙選びの方法や、教科の目標を達成するために必要な具体的な日本語の表現例の紹介。				

	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業づくりの上での在籍学級の授業の分析の重要性。</li><li>・指導者が具体的な語彙や表現を明示することや、ことばの置き換えでなく、ことばと概念を教えることの大切さ。</li><li>・さまざまな支援方法（理解支援、表現支援、記憶支援、自立支援、情意支援）。</li><li>・蛍光ペンを活用した簡易リライト教材作成方法の紹介。</li><li>・授業中に気をつけたいこと。（目標以外のことばの負荷を下げ、やさしい日本語を使う。情報を切り分けたり、色別で強調したりする。整理する、簡略化する。支援は、チョーク一本でもできるなど。）</li><li>・日本語指導担当と在籍学級担任の連携。子どもは、多くの時間を在籍学級で過ごすため、互いに任せっぱなしにせず、在籍学級が生きた学びの場になるための連携の大切さ。</li><li>・特別の教育課程を編成し、計画的に実施すること。</li><li>・中学校での外国人児童生徒等教育での、既有知識や母語を生かした理解の支援と認知的な発達を考慮した課題・学習活動の認知レベルを下げないことの重要性。</li><li>・子どもたちの来日の背景を知ることの重要性。自分の意志ではない、複雑な思いを理解すること。</li><li>・入管法改正によって外国人労働者が増加し、今後外国人の6割以上が長期滞在者となっていくと言われている中、日本の将来は外国人の力なくしては成り立たない。外国人児童生徒等教育に携わっていることが、日本の将来を担う役割をもっているという意識をもつべきであること。</li></ul>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>本市は、外国人児童生徒数が他地域に比べてかなり多い。そのため、学校日本語指導員の常時配置や巡回指導、外国人児童生徒等サポートセンターによる通訳、翻訳、ことばの教室での日本語初期指導など指導支援体制が充実していると言える。</p> <p>しかし、多くの時間を過ごす在籍学級で、外国人児童生徒等が「生き生きと」学校生活を送るために、学校の組織的な日本語支援がすべての学校で十分に実施されているとは言えない。</p> <p>今回、日本語指導の方法について今澤先生から具体的にご教示いただくことができ、参加者から「よく理解できた。9月からの実践に生かしたい。」という感想が多数寄せられた。今澤先生に教えていただいたことを踏まえ、教科の目標だけでなく、日本語の目標がきちんと設定された授業作りが展開されていくと確信している。</p> <p>今後も、市内の先生方と協働し、実際に授業案を作成するなどアイディアを出し合ったり、集住地区の学校と意見交換したりする等の機会を作って、外国にルーツのある子どもたちが、在籍学級で生き生きと過ごせる外国人児童生徒等教育を広げていきたい。</p>

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。